

医療安全トピックス TOPICS

Vol.102

慶越 真由美

日本看護協会看護開発部看護業務・医療安全課

コネクタの形状が変わります！ ～経腸栄養分野の誤接続防止コネクタの導入について～

本誌2018年11月号の本欄でもご紹介したとおり、製品分野間の誤接続防止目的で、神経麻酔分野、経腸栄養分野等の誤接続防止コネクタの導入が進められています^{*1}。わが国では、輸液ラインと経腸栄養ラインは、物理的につながらない形状の製品が広く普及していますが、医療事故防止対策の観点と、国際的な規格の整合による製品の安定供給のため、相互接続防止コネクタに係る国際規格の導入が施策として行われているところです。

すでに2018年末より神経麻酔分野で新規格製品の切り替えが進められていますが、今後、経腸栄養分野でも切り替えが行われることが厚生労働省の通知^{*2}で示されました。通知には、2019年12月以降に新規格製品の出荷が始まり、2021年11月末以降、既存規格製品（以下：旧規格製品）の出荷はされないことが示されています。そのため、経腸栄養を行うすべての関係機関において切り替え作業を行う必要があります。本切り替えは誤接続防止という医療事故再発防止の目的で行われますが、一方で、切り替えに伴うさまざまなリスクが予測されるため、未然防止の観点で先手を打って対策を講じておく必要があります。

経腸栄養を行っているところは、医療機関だけではなく在宅や介護施設など幅広く、また、医療従事者のほか、介護をしている家族等もかかわります。

このような背景を踏まえ、本稿では、経腸栄養分野の切り替えが安全に行われるために何が必要か考えていきます。

●経腸栄養分野の新旧規格製品の切り替えで何が起るか

新規格製品と旧規格製品では、コネクタの太さや形状が異なるため、相互に接続することができません（図表1）。例えば、経鼻チューブが旧規格製品で、栄養ボトルが新規格製品の場合、接続部で非嵌合^{かんごう}が生じます。また、新規格と旧規格では接続の手技が異なるため、在宅で経腸栄養を取り扱う家族等が、新規格製品の手技に戸惑い接続ができないことなども予測されます。これらのことにより、「必要な水分や栄養、薬剤が注入できない」という安全上の問題が生じることが予測されます。

●経腸栄養分野の新旧規格製品を安全に切り替えるための留意点

新旧規格製品の切り替えを安全に行うために、「関係者すべてにコネクタの形状が変わることを周知する」「新旧が混在しないように計画的に切り替えを行う」ことの必要性は、先行して切り替えが行われている神経麻酔分野と変わりありません。しかし、病院以外の在宅や施設でも経腸栄養が行われていることや、胃瘻などはある一定期間チューブを留置していること、医療従事者以外も関与する、という経腸

★1 「相互接続防止コネクタに係る国際規格（ISO（IEC）80369シリーズ）の導入について」（医政総発1004第1号、薬生薬審発1004第1号、薬生機審発1004第1号、薬生安発1004第1号、平成29年10月4日）

★2 「経腸栄養分野の小口径コネクタ製品の切替について」（医政安発0316第1号、薬生薬審発0316第1号、薬生機審発0316第1号、薬生安発0316第1号、平成30年3月16日）